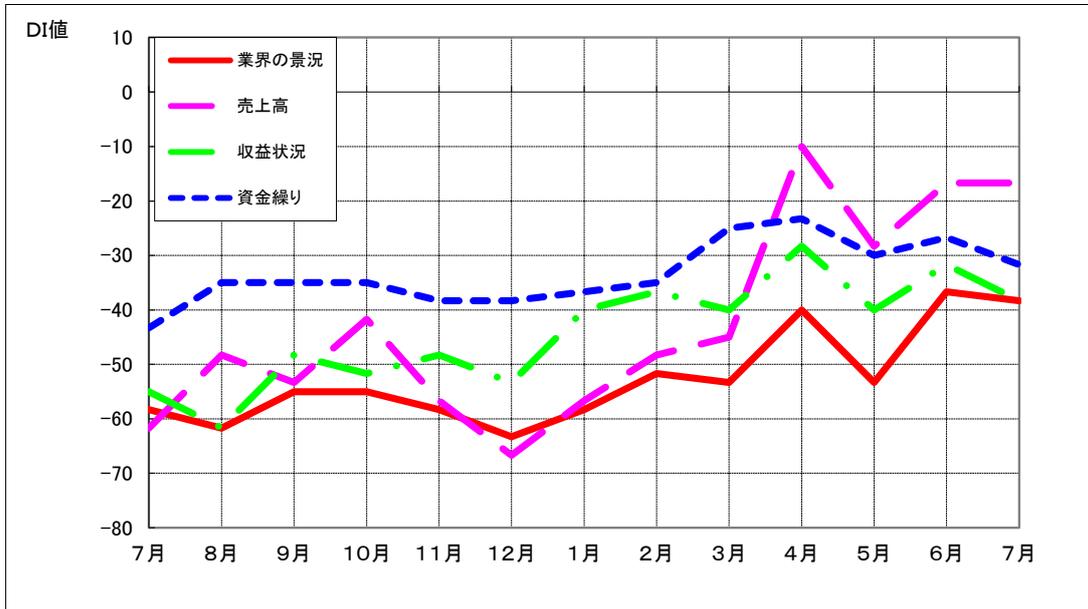


## 業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値 令和2年7月～令和3年7月

単位:ポイント



	R2						R3						
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
業界の景況	-58.3	-61.7	-55.0	-55.0	-58.3	-63.3	-58.3	-51.7	-53.3	-40.0	-53.3	-36.7	-38.3
売上高	-61.7	-48.3	-53.3	-41.7	-56.7	-66.7	-56.7	-48.3	-45.0	-10.0	-28.3	-16.7	-16.7
収益状況	-55.0	-61.7	-48.3	-51.7	-48.3	-53.3	-40.0	-36.7	-40.0	-28.3	-40.0	-31.7	-38.3
資金繰り	-43.3	-35.0	-35.0	-35.0	-38.3	-38.3	-36.7	-35.0	-25.0	-23.3	-30.0	-26.7	-31.7

7月のDI値は前月と比べ、1項目不変、3項目悪化であった。「売上高」DI値は不変、「収益状況」DI値は6.6ポイント、「資金繰り」DI値は5.0ポイント、「業界の景況」DI値は1.6ポイントそれぞれ悪化した。

前年同月比においては5ヶ月連続で全項目改善し、「売上高」DI値は45.0ポイント、「業界の景況」DI値は20.0ポイント、「収益状況」DI値は16.7ポイント、「資金繰り」DI値は11.6ポイントそれぞれ改善となった。

製造業においては、売上高は徐々に回復してきているが、5月から続く、材料及び資材の値上がりの報告が見受けられた。また、材料調達の遅れや品不足等の問題も報告されている。製造業の中でも、繊維工業等の業種では、昨年からの受注が不調となっており厳しい状態が続いている。

非製造業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、人の移動が制限され、需要が回復していないことから引き続き厳しい状態が続いている。一部では休業や閉店等の報告も見受けられた。商店街では無人店舗の出店や、小規模イベントの提案等、ウィズコロナに対応した動きが見られるが、依然として消費は低調であるため、国や自治体へ補助金や需要喚起のための施策を希望する声が見受けられた。

その他に、東京オリンピック終了後の新型コロナウイルス感染者の拡大及び、教育現場での集団感染の発生を危惧している意見が多かった。また、7月に発表された最低賃金の値上げに対しては、既に新型コロナウイルスの影響を受けている業界では死活問題になるため、慎重な議論を求める声があがっている。

組合からの特記事項としては、製造業からは引き続き木材や鉄関連の材料等の値上げが報告されている。また、食料品製造業においては、主原料等の値上がりが著しく、収益性を悪化させる要因となっている。

非製造業からは、7月に行われた最賃改定について、新型コロナウイルスの影響が全く回復していない中での、全国一率での最低賃金の大幅な引き上げについて疑問視する声があがっている。